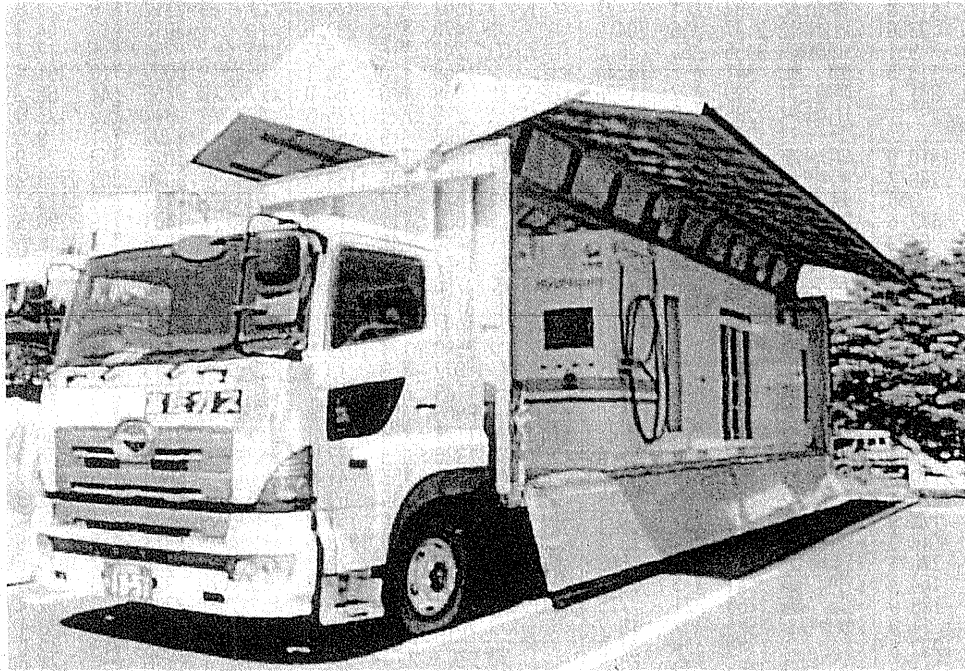


# 徳島市に水素供給施設

## 四国大陽日酸

### 四国初 本年度末運用

産業用ガス販売の四国大陽日酸（徳島市）が、燃料電池車に水素を補給する商用の移動式水素ステーションを導入する。当面は同市北田宮1の本社敷地内に置き、2015年度末に販売を始める。商用の水素ステーション開設は四国で初めて。現時点で燃料電池車は県内で1台も登録されていないが、同社は水素ステーション導入で普及を後押しする。



四国大陽日酸が導入する移動式水素ステーションの同型車（同社提供）

も検討している。

同社は、親会社の大陽日酸（東京）が移動式水素ステーションを

製造していることや、

現在も工場用に水素ガスを販売していること

から導入を検討。5億

6億円の費用が必要

な固定式よりも安く、

6月に移動式水素ステーションを発注した。

燃料電池車は水素と

酸素の化学反応で発電し、モーターを動かして走行する。排出する

のは水だけで、環境にやさしく「究極のエコカー」と呼ばれる。

14年12月、トヨタ自動車

が世界で初めて一般向けに「MIRAI（ミライ）」（4人乗りセダンタイプで72

3万6千円）を発売した。国は1台当たり202万円を補助する制度を設けているが、本格的な普及には水素を供給するインフラの整備が課題となっている。

県によると、現時点で県内に水素ステーションはない。県が3月に発表した「水素グリッド構想」では、25年までに燃料電池車1700台の登録、水素ステーション6カ所を目指すとしている。

四国大陽日酸の武田和倫社長は「どれだけ普及するのかわからず、当面採算は取れないだろう」としながらも「地球環境を守るためには燃料電池車の増加が欠かせない。将来的には事業の一つに育てたい」と話している。（三木研司）

移動式ステーションは、水素充填設備を搭載するトレーラータイプ。兵庫県尼崎市の工場から水素ガスが入ったボンベをトラックで搬入し、水素ステーションに充填して燃料電池車に補給する。容量は約15キロで、燃料電池車3台分を満タンにできる。

関連設備も含めた事業費は3億円超の見通し。経済産業省の補助金約1億8千万円のほか、県の補助金の活用

# 普及、活用へ動き活発

既に東京で稼働している移動式水素ステーション、県内でも  
来年2月に導入される予定—四国大陽日酸提供



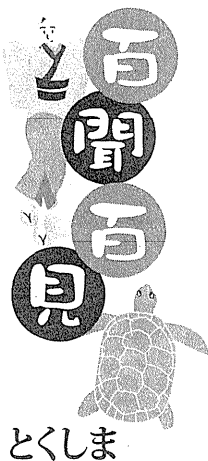
## 水素社会

化石燃料に代わるエネルギーとして注目される水素

を、地方自治体がまちづくりの柱にする動きが広がっている。水素関連工場がある利点を生かし、県は1月に協議会を設置し、来年2月には燃料電池車に水素を供給する「水素ステーション」が県内で動き出すめどが付いた。ただ、燃料電池車が増えないと水素の普及は難しく、水素の活用方法は

の多様化が求められる。

「四国と近畿との結節点の徳島から、水素社会をスタートさせる気概で取り組んでほしい」。県の6月補正予算案の知事査定が始まった5月14日、水素関連事業の担当者に対して、飯泉嘉門知事が奮起を促した。補正予算案には、水素ステーション建設や燃料電池車購入の補助などに計3億4700万円を計上す



## 燃料電池車頼み 用途拡大が課題

ることがその場で決まった。

水素エネルギーの普及は、安倍政権の成長戦略の一つに位置付けられ、国は来年3月までに、4大都市圏の水素ステーションを100カ所に拡大する方針だ。トヨタ自動車は昨年12月、燃料電池車「ミライ」を世界で初めて一般向けに発売した。ただ、水素ステーションは建設費用が1カ所4億〜5億円と高く、稼働しているのは全国で22カ所（5月26日時点）にとどまる。燃料電池車の生産台数は急拡大できず、普及には時間がかかる。

それでも、現在のエネルギー事情を一変させる可能性がある水素への期待は高まっている。県は3月、2025年までに1700台の燃料電池車が県内に導入され、水素ステーションを2基、トレーラーに水素を搭載する移動式水素ステーションを4基設置する目標を掲げた。

協議会に参加している産業用ガス販売、四国大陽日酸（徳島市）は、国や県の補助を受け、県内で初めての水素ステーションを来年2月に設ける。移動式で、

水素は当面、兵庫県尼崎市から別のトラックで輸送する。武田和倫社長は「都市部よりも人口密度は低いのが、山間部の利用者にも水素を届ける機動力がある」と期待する。

カセイソーダの製造過程で大量の水素が発生する東亜合成徳島工場（徳島市）も水素の活用に向きだ。本間日佐夫工場長は「固定式の水素ステーションを1カ所運営できる余剰がある」と話し、工場が高速道路に近い利点を生かし、水素ステーションの設置を目指している。ただ、水素を高圧にする設備が新たに必要になり、「燃料電池車に限らず水素需要を広げる必要がある」（本間工場長）。

水素エネルギーの先進地では、すでに利用手段の拡大に向けて動いている。山口県周南市では、現在が都市ガスから水素を取り出して電気とお湯をつくっている家庭用燃料電池に、直接水素を送る実証試験が進んでいる。山口大学の稲葉和也教授（経営学）は「燃料電池車の普及が遅く、水素ステーションが宝の持ち腐れになることは避けたい。その地域の特徴を生かした独自の利用方法を見いだすことが地方には不可欠だ」と指摘する。

【蒲原明佳】

### 燃料電池車

水素と酸素の化学反応で発電し、モーターを動かして走る。ハイブリッド車（HV）などのエンジンと違い、走行中に排出するのが水だけで環境に優しい。電気自動車（EV）が1回の充電に時間がかかるのに比べ、燃料電池車はエネルギー源の水素を短時間で補充でき、走行距離も長いのが特徴。